

# 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニュー開発

NPO新潟みなとクラブ 理事長 石井洋司  
理事 吉田秀樹

## 1. 研究の背景と目的

新潟県の信濃川・阿賀野川流域・日本海沿岸等に定期市(六斎市)が60か所以上存在する。特に水運・海運の港のあった在郷町や湊町に多数存在する。六斎市は近代まで全国に存在したが、現在では新潟県・秋田県・愛知県等一部地域だけで、多数存在するのは新潟県のみである。新潟県の六斎市には現在も多数の買い物客が訪れ、中には外国人の観光客もみられ、地域振興メニューとして有望と考えられる。

一方新潟県において、近年六斎市に関する全体的調査は実施されていない。出店者も高齢化し、大型商業施設の進出等のため、現在のうちに記録に残すことが急務である。

このため、新潟の独特遺産である六斎市について、今回県内の現状等の悉皆調査、全国の六斎市の分布調査を通して、新潟の六斎市の独特性を明らかにし、マップを作成するとともに、地域振興メニューとしての

可能性を探るための内陸水運と関連付けた「六斎市ツアー(社会実験)」を企画・分析し、地域振興メニューを提案することを目的とするものである。

注)市には、毎日市、週市(曜日開催)、六斎市(月6回開催)、三斎市(月3回開催)、年市(毎年特定日に開催)六斎市とは、2, 7, 12, 17, 22, 27のように、2と7の付く日、月に6回に市が立つ定期市。中世より見られる。今回の調査対象は、これら市から、毎日市、週市、年市を除いた定期市。

## 2. 研究内容

### 2-1. 研究の構成(表1)

新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニュー開発のため、以下の調査項目を実施した。太字 令和5年度新規)

- ①全国の六斎市のさらなる調査。文献等調査や現地調査。秋田県北部地域
- ②六斎市活性化取り組み調査(大学生、マルシェ等)
- ③現地集合方式による新潟市民対象の有料六斎市&町・坂歩きの実施。松浜市対象。
- ④六斎市のパンフ2種類(新潟県版、新潟

表1 当調査3カ年調査計画

	R3 1)2)3)4)	R4 5)6)	R5 7)
・六斎市調査(全国)	・HP調査 ・現地調査(秋田県横手地方、増田)	・HP調査 ・現地調査(三河地方)	・HP調査 ・現地調査(秋田県北部)
・六斎市調査(新潟)	・県内一斉調査票調査 ・まとめおよび分析	・六斎市振興策実施自治体調査	・六斎市振興策実施団体調査 ・大学ヒアリング
・パンフ等作成	・新潟県六斎市一覧表 ・新潟県六斎市カレンダー	・新潟県内六斎市マップ ・全国六斎市マップ	・六斎市パンフ(新潟県版、新潟市版)
・地域振興実証実験(六斎市モニターツアーの実施)	・新潟市民向けツアーの実施 小須戸(11/13) 亀田(11/23)	・都民向けツアーの実施 葛塚(10/15) ・新潟市民向けツアーの実施 新津(10/1)	・新潟市民向けツアーの実施 (昼食、坂) 松浜(10/7)
・地域振興への考察	・地域振興メニュー素案	・関係自治体と共同検討 ・地域振興メニュー検討	・地域振興メニュー提案

市版)を作成

⑤既存観光パンフへの「六齋市」掲載要請運動の実施

## 2-2. 六齋市調査(全国)

### (1)必要性

地域に特定した調査は時々なされているが、近年は全国的な調査はにより web や文献等から全国的調査がなされている程度である。新潟県とともに定期市が残っている秋田県・愛知県に関する調査が少ない。これら地域の現状を調査することにより、新潟の六齋市等定期市の全国的に見た独特性を明らかにする必要がある。

### (2)実施内容

昨年度までの調査結果をもとに令和5年度は秋田県県北部の定期市を調査した。秋田県北部の定期市の特徴は米代川、八郎潟川沿いに発達した町に残る定期市である。

秋田県北部の「五城目」定期市について、五城目役場に対しヒアリング(6月26日)を実施し、現地調査として、五城目朝市・12齋市(6月27日)、鷹巣朝市・三齋市(6月27日)、花輪朝市・六齋市(6月28日)を実施した。(写真1. 2)



写真1 朝市ふれあい館(五城目町)

### (3)結果と課題

全国調査でわかったことは以下の通りである。新潟における定期市の全国的に見た独特性が確認できた。

- ①秋田の定期市も新潟同様歴史が古い。
- ②秋田の定期市新潟のより衰退の速度が10-15年程度早いと思われる。



写真2 花輪朝市会場

③調査した五城目・花輪の市場会場は公的に整備がなされている。

④五城目朝市については「盛り上げ隊」、花輪朝市についてはNPOと振興のための団体組織が新潟より充実している

⑤観光と実際の地元民の買い物との調整が課題である。

## 2-3. 六齋市調査(新潟)

### (1)必要性と実施内容

六齋市を地域振興に役立てるためには、地元の有志や大学等若者の取り組みが重要と考え、昨年までの我々の調査や北区役所の方とのうち合わせの中で出てきた、大学や地元の方の取り組みについてヒアリングを行った。地元団体については、令和5年7月6日 松浜Rプロジェクト 小林代表、大学取り組みについては、令和5年7月21日 新潟食料農業大学 岩坂教授にヒアリングを実施した。

### (3)結果と課題

①松浜六齋市について、松浜Rプロジェクトが、街歩き・坂道歩き・「松浜市場」魅力発掘を行った。我々が今回実施する六齋市と街歩きと同じ内容で行われている。ただし現在も継続的に行われているわけではなく、継続的な取り組みが望まれる。

②大学の取り組みとして、新潟食料農業大学が、令和4年度の授業の一環として実施した。対象は葛塚市で、昨年度NPOみなとクラブが実施した関東の住民対象にした六齋市ツアー(4/10/15)実施日に大学が参加したそうである。今年度は実施しておらず

継続定期的な取り組みが望まれる。

## 2-4. 地域振興実証実験（現地集合方式による新潟市民対象の有料六斎市ツアー）（松浜）

### (1) 必要性

今回の実証実験の以下の項目を確認することを目的として実施した。①～⑥については昨年度同じ目的であるが、⑦については、今年度新たに盛り込んだ内容である。

- ①六斎市・水運と関係した町の発展に関して新潟市民に認識されているかの確認。
- ②六斎市ツアーが魅力的かの確認
- ③水運との関係も考慮した町歩きとセットになった六斎市ツアーが可能かの確認。
- ④六斎市ツアーが地域振興のメニューとなるかの確認。
- ⑤昼食付きかつ有料の六斎市ツアーが受け入れられるか。
- ⑥現地集合の六斎市ツアーが受け入れられるか。
- ⑦松浜の特徴である「坂道歩き」とセットにしても成立するか。

### (2) 実施内容（表2、図1）

時期としては、旬の野菜・果物が出回る秋、六斎市開催と土曜もしくは日曜が重なる日時として10月7日(土)に設定した。行程は表2の通り。料金は3,000円。定員20名とした。

広報手段として「市報にいがた」には掲載がなかった。

そのかわり、①新潟日報掲載(10月3日付)②WEB・SNS（新潟のタウン誌が運営する「こまちウェブ」掲載）③新潟みなとクラブ HP 掲載 ④チラシ作成 公民館配

表2 六斎市ツアー行程表

松浜六斎市モニターツアー 2023.10.7 土 8:50 北区公民館集合 9:00 出発・松浜町概観 9:40 松浜六斎市 10:30 新井郷川蒸気船発着場 10:50 松浜坂巡り 12:00 昼食 日本料理 まるふく 13:00 北区公民館解散
---



図1 六斎市ツアーチラシ

布 ⑤知人に周知 で周知した。参加者は18名だった。

(1)の7項目に関する項目を主にアンケートを実施した。

### (3) 結果と課題

#### (六斎市ツアー当日) (写真3～5)

北地区公民館講義室に集合し、みなとクラブからツアーの趣旨等を説明し2班に分けてあかしあ公園を經由して六斎市に向かう。はじめは風雨が激しかったが、その後雨はやみ、街歩き・坂歩きを実施し昼食を



写真3 六斎市ツアーの様子(六斎市)



写真4 六斎市ツアーの様子(坂歩き)



写真5 六斎市ツアーの様子(昼食)

経て 13 時に北地区公民館に戻り、アンケートに無記名記入を御願いし、各自預けた荷物を受け取り解散した。

#### (六斎市ツアーアンケート結果と課題)

参加者へのアンケート調査結果からわかった結果と課題は以下の通り。

#### ○六斎市ツアー

- ①参加者にはツアーは好評だった。
- ②次回も参加希望という結果だった。
- ③ツアーに関しては「全て」が好評であった。「街歩き」「坂歩き」も好評だった。

#### ○六斎市に関して

- ①六斎市自体知っているが「新潟は六斎市が多いことを知らない」が多い。
- ②六斎市は、「雰囲気」が魅力である。
- ③改善点として、六斎市集時間・集合場所明確化だった。
- ⑤「六斎市」との競合は「直売所」。

#### ○水運との関係

- ①参加者に「水運と六斎市との関係」を理

解してもらった。

#### ○地域振興

- ①参加者は「六斎市は地域振興に役立つ」と考えた。
- ②「PR」と「街歩きとの連携」「駐車場を増やす」が不可欠。

#### ○坂歩き

- ①六斎市と坂道歩きは両立する。

#### ○課題→広報・募集

・市民に対する市報にいがた以外の募集方法の開拓である。

## 2-5. 六斎市パンフ(新潟県版、新潟市版)の作成(図2.3)

### (1)必要性

新潟独特遺産である六斎市を活性化し地域振興に役立てるためには、新潟県民、新潟市民に六斎市の存在および新潟の独特性を理解してもらう必要がある。また県外の人にも六斎市をPR する必要がある。

### (2)実施内容

六斎市パンフ(新潟県版、新潟市版)の作成することとした。

手軽に見られるように見開き4ページとし、水運との関係がわかるように、河川も地図に記入した。

新潟県版では六斎市の紹介だけ、新潟市版では各六斎市の特徴や写真を掲載した。

構成は以下の通りである。

- 1 ページ 表紙
- 2.3 ページ 新潟県(市)内六斎市等定期市マップ
- 4 ページ 六斎市の説明の全国分布、新潟の独特性、六斎市カレンダー

各々2千部印刷し観光案内所、各市役所、公民館等に配布する予定である。

### 3. 今後の活動・展望見出し

今回の調査結果は報告書<sup>7)</sup>にまとめたので詳細は参照されたい。

来年度以降は以下に取り組む。

- ①現地集合方式による新潟市民対象の有料

- 六斎市&町歩き・坂歩きの実施。
- ②六斎市のパンフ2種類(新潟県版、新潟市版)の各公共施設への配布
- ③県内各自治体に「六斎市」認識向上・活性化への取り組みを陳情
- ④既存観光パンフへの「六斎市」掲載要請運動の実施

4. おわりに

六斎市は新潟では至極当然のように行われているが、知らない市民が非常に多い。今年度まで3年間このような機会をいただいで、六斎市全国・新潟調査と六斎市ツアーを実施した。特に昨年は関東の住民向け六斎市ツアーを実施した。3年間の調査で、新潟県内、全国の主な六斎市等定期市の調査ができた。その結果15年前より全国的に定期市が衰退していることがはっきりした。産直などとの競合、役割分担ができていないこと、公共の取組みの不足、地域振興への認識、定期市の性格付け等大きな課題が明らかとなった。また広報・募集の難しさも実感した。これらに対応しつつ

六斎市の活性化に向けて取り組みたい。  
 なお、この調査は(一社)北陸地域づくり協会の「北陸地域の活性化」に関する研究助成を受けています。(2024年3月作成)

参考文献

- 1) 吉田秀樹(2022): 新潟地域の独特遺産である定期市(六斎市)の現状調査と将来に関する一考察: 令和4年度土木学会全国大会
- 2) 新潟みなとクラブ(2022): 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニュー開発調査報告書: 新潟みなとクラブ
- 3) 新潟みなとクラブ(2022): 六斎市調査(新潟)調査票による現況調査報告書: 新潟みなとクラブ
- 4) 吉田秀樹(2022): 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニュー開発～六斎市の現況調査と六斎市ツアー実証実験～: 日本沿岸域会議 R4 研究討論会
- 5) 新潟みなとクラブ(2023): 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニューの開発(II)調査報告書: 新潟みなとクラブ
- 6) 吉田秀樹(2023): 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニュー開発(II)～六斎市の現況調査と六斎市ツアー実証実験～: 日本沿岸域会議 R5 研究討論会
- 7) 新潟みなとクラブ(2024): 新潟の独特遺産である六斎市を通じた地域振興メニューの開発(III)調査報告書: 新潟みなとクラブ



図2 六斎市パンフ新潟市版(表紙および裏表紙)

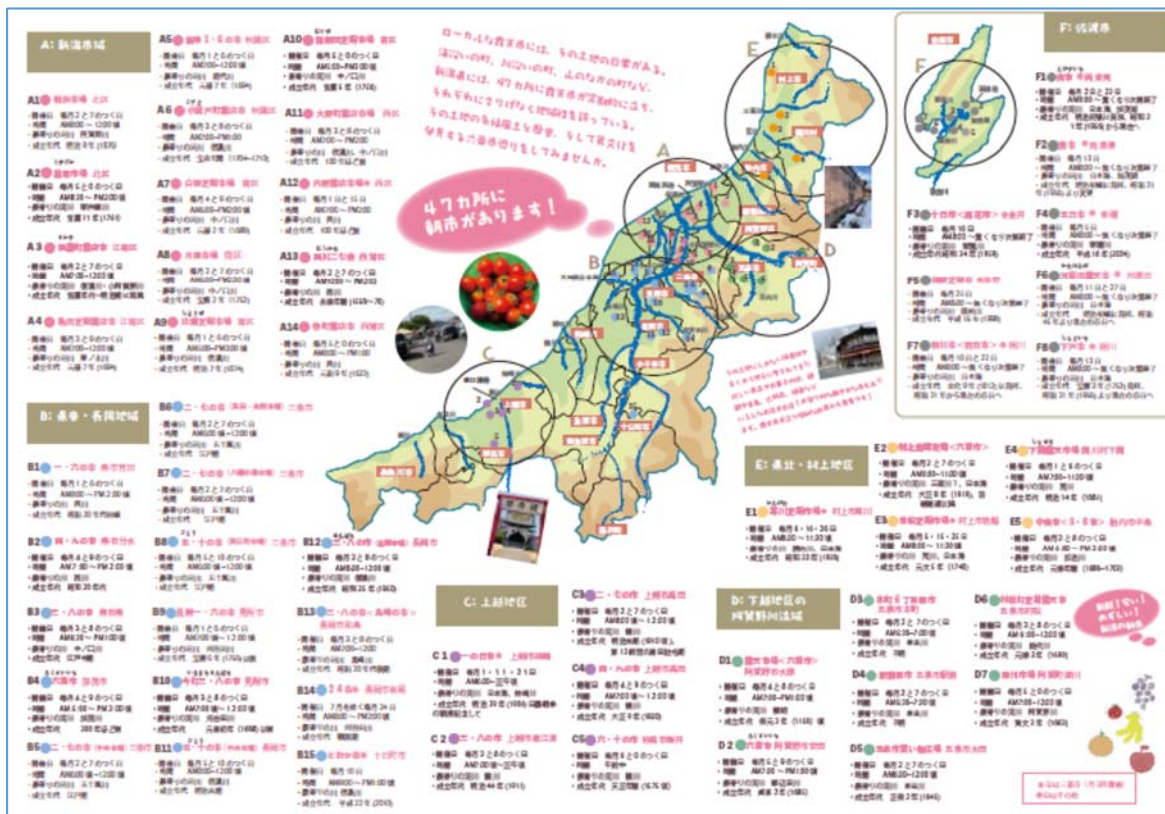


図3 六斎市パンフ見開きマップ(上 新潟市版 下 新潟県版)